

基本情報						
教科・科目		K2 数学B（理系標準）☑		・授業で使用するもの		
担当者		岩本 育大		・高等学校 数学B（数研出版） ・高等学校 数学C（数研出版） ・授業用プリント ・iPad		
評価割合（試験：試験外）		試験： 6 試験外： 4		試験外評価は、単元ごと的小テストと再テスト、授業中や家庭学習の取り組みを評価する。		
年間を通じて教科で培う力		鍛錬（知識及び技能）		数列の一般項、ベクトルの内積などに関する定義・定理・公式を理解し、適切な範囲で正確に使用して計算や証明ができる。 図やグラフを用いて、数列・空間の性質を視覚的に表現できる。		
		理知（思考力・判断力・表現力等）		定理や公式の導出過程や計算手順の意味を整理し、問題の背景や根拠を理論的かつ明確に説明できる。 解答に至るまでの過程を数式や図を組み合わせで示し、考え方をわかりやすく表現できる。 複数の単元の中から必要な理論を選び、様々な解法の中から効率性や正確性をふまえて適切な方法を選択できる。		
		探究・観智（主体的に学習に取り組む態度）		初見問題や融合問題に対して、条件を整理し、解法の筋道を論理的に立てて取り組むことができる。 他者と解法と比較・共有する中で、新たな視点を自らの学習に取り入れることができる。 解けなかった問題について原因を分析し、次に取り組む課題を自ら設定できる。 また、その課題に対して粘り強く試行錯誤しながら取り組むことができる。		
学習情報						
月	回	単元名	単元目標（到達状態）	学習内容	活動内容	評価方法・ポイント
4 5	12	等差数列と等比数列 いろいろな数列 漸化式と数学的帰納法	・等差数列などの特徴的な数列の一般項や総和を求めることができる。 ・Σの記号を用いて数列の和を工夫して計算できる。 ・数列の隣り合う項について成立する法則を漸化式で記述できる。	・数列と一般項 ・等差数列 ・等比数列 ・それぞれの数列の和 ・和の記号Σ ・階差数列 ・いろいろな数列の和（部分分数分解など）	・講義 ・演習、グループワーク	・小テスト ・課題提出 ・グループでのアウトプット
6	定期試験① 令和8年 6月3日－6月5日					
6 7	12	漸化式と数学的帰納法 ベクトルとその演算	・数列の隣り合う項について成立する法則を漸化式で記述できる。 ・いくつかの具体例から帰納的に予測した性質を証明できる。 ・3点が一直線上にある条件などの、図形の性質が成立する条件をベクトルの言葉で記述できる。	・漸化式（いろいろなパターンを学ぶ） ・数学的帰納法とその利用 ・ベクトルとは ・ベクトルの演算 ・ベクトルの成分 ・ベクトルの内積	・講義 ・演習、グループワーク	・小テスト ・課題提出 ・グループでのアウトプット
7	定期試験② 令和8年 7月15日－7月17日					
7 9 10	15	ベクトルと平面図形 空間のベクトル	・直線と平面の交点などの空間上の点について、位置ベクトルに関する条件に言い換えて、これを求めることができる。	・位置ベクトル ・ベクトルの図形への応用 ・図形のベクトルによる表示 ・点と直線の距離	・講義 ・演習、グループワーク	・小テスト ・課題提出 ・グループでのアウトプット
10	定期試験③ 令和8年 10月21日－10月23日					
10 11 12	14	確率分布	・確率変数の分布を描写し、期待値、分散を計算することができる。 ・確率変数の線形変換である確率変数を計算することで、確率変数の期待値の線形性や分散の持つ性質を発見し、証明することができる。 ・2つの確率変数が独立であるか、定義に従って確認し、さらに独立な2つの確率変数にのみ成立する性質を理解することができる。	・確率変数と確率分布 ・確率変数の期待値と分散 ・確率変数の和と積 ・二項分布 ・正規分布	・講義 ・演習、グループワーク	・小テスト ・課題提出 ・グループでのアウトプット
12	定期試験④ 令和8年 12月9日－12月11日					
1 2 3	15	統計的な推測	・正規分布曲線を用いて、標本から母集団の平均や比率を推測できる。	・母集団と標本 ・標本平均の分布 ・推定 ・仮説検定	・講義 ・演習、グループワーク	・小テスト ・課題提出 ・グループでのアウトプット
3	定期試験⑤ 令和9年 3月4日－3月6日					